

在ブダペスト

日本人会会報

平成6(1994)年

新春号

ドナウ通信

NO. 19

目 次

大使館からのお知らせ<文化行事等>	2
領事案内<運転免許の失効処理>	3
日本人補習校便り	4
日本人会1993年度会計報告	5
1994年度日本人会活動計画	6
人物往来	6
行事：マエストロ小林を囲む音楽の夕べ	7
随想 国際指揮者コンクール 小林研一郎	7
掲示板、編集室	12



大使館からのお知らせ

ハ文化行事等のご案内

1) 慶応ワグネル・ソサイエティー・

オーケストラのコンサート

2月27日(日) 19:30より、Pesti

Vigadóにおいて、慶応ワグネル・ソサ

イエティー・オーケストラのコンサ

トが行われます。200人以上のオー

ケストラ部員が演奏を行う予定です。

(問い合わせ先: 日本大使館)

2) 人形劇専門家 沢則行氏の公演

3月5日(土) 20時より、ムー・シ

アター(ブダペスト市内)において、

人形劇専門家沢則行氏による公演が行

われます。同氏はパントマイムと人形

劇をミックスした一人芝居の専門家で

す。

場所・MU Színház, Lágyminyosi

Közösségi Ház

1117 Budapest, Kőrösi József u. 17

Te l : 1 6 6 6 - 4 6 2 7

3) 国際図書館

3月10日から13日まで、Pesti

Vigadó において、第6回国際図書館

が開催されます。出版文化国際交流会

と国際交流基金は、これに出展し、日

本の本を紹介します、時間は、9:30

~ 18:00です。

4) 映画の上映

国際交流基金ブダペスト事務所では

毎月ハンガリー人向けの日本映画の上

映会を開催しており、18日(金) 18時

より、「あ・うん(英語字幕)」「(監

督: 降旗康男、出演: 高倉健、富司純

子、坂東英二ら)の上映を行いますの

で、お知り合いのハンガリー人の方に

ご紹介をお願いします。入場は無料

です。

場所・Toldi Mozi Bálázs Béla

Stúdiója

(Budapest, Bajcsy-Zsilinszky út.

36-38.)

5) 日本語教育専門家短期セミナー

(第2回)

ハンガリーで日本語を教えている先

生(日本人の先生も含む。)を対象に

日本語の教授法などについてセミナー

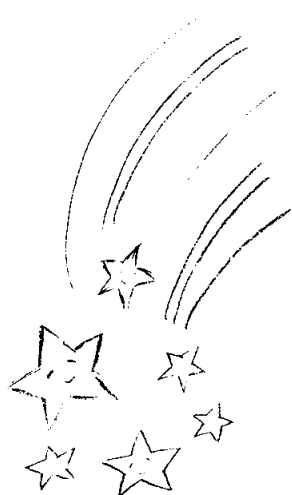
を3月21日及び22日に当地で開催しま

す。

参加御希望の方は、至急、国際交流

基金事務所 (Te l : 2 6 9 - 1 0 0

4) まで連絡下さい。



① 運転免許 Q & A

Q / この度、外国から日本に帰って来たのですが、外国にいたる間に、運転免許が失効してしまいました。新たに免許を取得するにはどうすればよいのでしょうか。再度、試験を受けなければならないのでしょうか。

A / 1・失効後6か月以内の場合

学科試験、技能試験免除（適性試験は必要）で、それまで取得していた免許が取得できます。

① 手続きに必要な書類等

- ・失効した免許証
- ・住民票の写し（本籍地の記載のあるもの）

・パスポート

・写真（3×2.4）1枚

・手数料

② 申請先

住所地を管轄する公安委員会
（免許試験場）

2・失効後6か月以上の場合

技能試験及び学科試験の免除を受ける為には、国外にいたため更新ができなかった旨の証明（パスポートで可）が必要になります。

なお、途中一時的に帰国されている方は、帰国されていた日数等により免除されない場合がありますので住所地を管轄する公安委員会（免許試験場）お尋ね下さい。

また、失効後3年を経過している場合には、技能試験のみが免除になります。

① 手続きに必要な書類等。

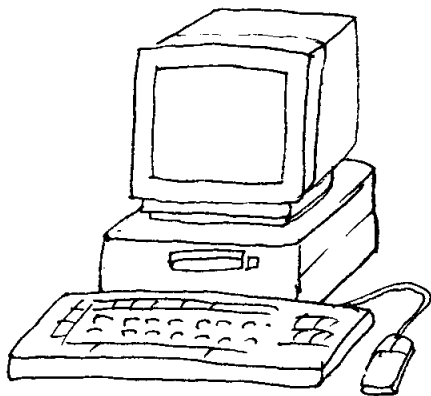
・失効した免許証

・住民票の写し（本籍地の記載のあるもの）

・パスポート

② 申請先

・写真（3×2.4）1枚
・手数料
住所地を管轄する公安委員会
（免許試験場）



補習校便り

3学期にはいってすぐ、子供達がとても楽しみにしている恒例の書き初め

・もちつき大会を行いました。慣れない筆に四苦八苦する子もいれば、勢いよく筆を走らせる子もいて、それぞれの個性がよく出た素晴らしい書き初めができました。これまでは、書き初めの最中にふざけたり騒いだりする子が多かったのですが、今年は真剣そのもの。というのも、書き初め終了後、場所を大使館に移動してもちつき大会が行われるため、「ぐずぐずしていたらもちつきができなくなる。」「早くおいしいお餅が食べたい。」等々、誰も口にこそ出さないもの、心の内はしっかり顔に書いてありました。

書き初めが終わってからバスで大使館に移動し、早速もちつき大会が始まりました。食べるのに夢中な子、お餅をつきたくてしょうがない子、もちつきよりも懐かしい大使館(旧補習校)

で遊ぶのに夢中な子。また、この日を変奏しみにされている力自慢のお父さん達の姿も頼もしく、好天に恵まれ、素晴らしい一日となりました。

学校移転後、実はもちつき大会はできないのではないかと危ぶまれたのですが、大使館側の御厚意で、敷地の一部を、もちつき用に提供していただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

2月に入って、学校外活動日にたこ作りをしました。思い思いの絵を描いた紙に、竹ひごをつけて組み立て、外でたこ上げをする予定でしたが、あいにくの雪でたこ上げはできませんでした。出来上がったたこが上がるかどうか、すぐに試せなかったのは残念ですが、お天気のいい週末に家族揃ってたこ上げをして、どうすればよく上がるかそれぞれ工夫してもらえばと思います。

本当は、もちつきは年末に、凧上げはお正月にするもので、多少時期はず

れましたが、異国暮らしで、日本の文化や伝統から遠ざかってしまいがちな子供達には、いい経験となったはずです。日本では今ではお餅もたこも自分で作るものではなくお店で買ってくるものとなりました。日本に住む子供達よりも補習校の子供達のほうが日本の古き良き伝統に接する機会が多いのかも知れませんね。

毎年学年末に『世界』という文集を作ります。今年は「私の宝物」というテーマで作文を書いています。このテーマはなかなか難しいらしく、原稿用紙を前に考え込んでしまう子の姿がよく見られます。物質面では豊かになって、欲しいと思うものがすぐ手に入るようになったものの、「宝物」と思えるものに出会うのはなかなか容易ではないようです。子供達が成人して、少年少女時代を振り返った時に、ブダベスタでの生活、補習校での経験が宝物の一つになっていればこんなに嬉しいことはありません。

1993年度 会計報告

1993年度 日本人会会長 桑島 有一

《収入の部》

	DEM	HUF	USD
年会費（個人） （商工会より）	29,000.-	55,700.-	0.-
銀行利息	683. ⁹⁷	267.-	0.-
遠足臨時会費		163,700.-	0.-
運動会前年度繰越金		7,108.-	0.-
総会臨時会費	6,500.-	178,800.-	0.-
福引収入	90.-	130,000.-	0.-
労働研究調査部より	221. ⁴²		
DMよりFtへ換金	△ 18,485. ⁹⁴	1,034,000.-	0.-
合計	18,009. ⁴⁵	1,569,575.-	0.-

《支出の部》


	DEM	HUF
映画会（2回分）	826. ¹⁰	19,400.-
音楽会（2回分）	769. ⁴⁵	309,532.-
ソフトボール大会		95,021.-
遠足	3,403. ⁹⁰	287,485. ⁹⁰
運動会		205,739.-
巡回医師団接待費		26,000.-
総会	16,950.-	330,179. ⁸⁰
ドナウ通信（4回分）	1,600.-	62,107.-
事務局費用／雑費	3,140. ⁸⁸	169,350. ¹⁰
合計	26,690. ³³	1,504,814. ⁸⁰

	DEM	HUF	USD
92年度繰越金	29,887. ²⁰	43,808. ⁶⁶	185.-
93年度収入	18,009. ⁴⁵	1,569,575.-	0.-
合計	47,896. ⁶⁵	1,613,383. ⁶⁶	185.-
93年度総支出	26,690. ³³	1,504,814. ⁸⁰	0.-
次年度繰越金	21,206. ³²	108,568. ⁸⁶	185.-

1994年ハンガリー

日本人会活動計画

△商工会関係▽

人物往来  (敬省略)

ドナウ通信	4回発行	4半期毎	着任		
映画会	2回	2月20日	浅山 道明	伊藤忠商事	93年6月
演奏会	10月	6月4日	古川 さつき	松下電産古川氏御令室	93年7月
ソフトボール大会	2回	5月	志治 由利子	豊田通商志治氏御令室	93年7月
		10月10日	高橋 直樹	ブリジストン	93年6月
		6月			93年8月
遠足	1回	7月	三木 朝子	丸紅三木氏御令室	93年8月
運動会	1回	12月	宮内 康行	三井物産	93年12月
(補習校共催)		翌年第一回	浅沼 玲子	美智子	94年2月
総会	1回	催し物時			94年3月
会計報告	1回				(予定)

尚、年末の総会につきましては、会費と食事内容が釣り合わないとの批判が多く、現地で全てを調達する方向で計画を立てております。

J E T R O 浅沼氏御令室

マエストロ小林を囲む音楽の夕べ

小林研一郎氏ハンガリー国立交響楽団、

20周年記念の集い

主催 「記念の集い」実行委員会

共催 ハンガリー国立交響楽団、

国立合唱団

協賛 ケンピンスキーホテル

1974年春、小林研一郎氏はブダペスト国際指揮者コンクールに於いて第一位の栄誉を獲得され、国際舞台でのデビューを飾られました。今年はそのコンクールから数えて、ちょうど20年に当たります。

この20年間、小林氏は日本とハンガリーとの文化交流の発展に大きな貢献をされただけでなく、小沢征爾氏と並び、国際的に活躍する日本人指揮者として知られるところとなりました。

小林氏の国際舞台へのデビュー20周年をお祝いし、今後の氏の活躍をご支援する会を催すことになりました。

日時：3月8日 午後7時

於：ケンピンスキーホテル

ボール・ルーム

7：00会場 カクテル

7：30開会

マエストロ小林ご経歴紹介

交響楽団より祝辞

小林先生ご挨拶

7：50休憩（軽食、飲物）

8：20第一部コンサート

国立交響楽団、国立合唱団による小コンサート

9：00休憩（軽食、飲物）

9：20第二部コンサート

早稲田大学グリークラブ

加藤洋之君ピアノ演奏

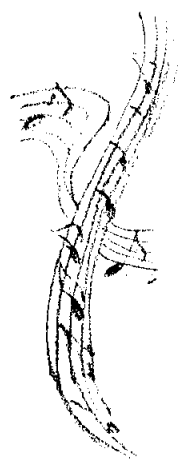
小林亜矢乃さんピアノ演奏

マエストロ小林独演

10：30散会

「記念の集い」の参加費は3500

Ftです。参加ご希望の方は、「ドナウ通信」編集部までお問い合わせ下さい。



随 想

国際指揮者コンクール

不可能を可能にする

小林研一郎

運命の日

一九七四年二月十九日、この日僕は未知の世界からの招待状を受ける。そしてこの日が、世界の音楽界に翔ける礎の日となる。

発売されたばかりの雑誌の最終ページに、ブダペストで開かれる国際指揮者コンクールの募集要項を見つけた。コンクールほとんどすべての年齢制限は、二十九歳である。その年齢までには、二十歳で昇れなければならないという。鉄条網のようなものが厳然と敷かれている。

当時三十四歳だった僕に該当するこ

とは無いという思いで読み流した。

突然心臓が早鐘を打ち出したのは、年齢制限三十五歳を見た時だった。しかし、ときめきはすぐにひじてつを食う。締切は二月十五日。すでに四日過ぎてている。

自分はよくよく運のない男だと思つた。雑誌が気ぬけした手からすべり落ちた。足元で見開きページのピアノストの写真が妙にセクシーに見えた。やるせなさに加え、怒りが急にこみ上げてきた。なぜ今日発売された雑誌に締切を過ぎたコンクールの募集要項を載せるのだ、と思つたら、足がひとりで雑誌をけとばしていた。ドアに当たつた雑誌はにぶい音を立てて妙にひしゃげた形になつていた。

瞬間、ひらめいたことがあつた。待てよ、締切が四日前でも消印からくりの可能性があるのではないか。四日前に出した手紙がハンガリーに着いていないとすれば何か策が……。そして、この瞬間から運命が未知の世界と

のドラマを始めてくれる。

ドラマの開始は玄関にベルの音。慶応ワグネル出身で武蔵野合唱団の坪井研治君であつた。

フィアンセと共に結婚の報告に見えたのだが、偶然とはいえ不思議な巡り合わせを強く感じる。

目に見えない運命の糸がこれらのすべてを結びつける役をしてくれたような気がしてならない。何故なら、彼に友人に、当時のハンガリー大使、都倉栄二氏の御息、裕二君がいたのだ。事は猛烈なスピードで回転し始めた。裕二君は父上に、国際電話で僕の希望を報告してくれた。

大使と夫人は早速、コンクール委員会に懇願した。が、主催者側はすでに五名の日本人の応募者を受け入れており、もう一名加えることは、無理だという。しかし、大使御夫妻の、再三再四の懇願に、主催者側も根負けし、募集内容にあてはまる人ならということになり、内容の詳細を僕の所に発送してくれることになつた。

一難去つてまた一難

しかし、一難去つてまた一難というか、コンクール募集の内容はすさまじいものであつた。

すでに活躍していて、三年以上指揮生活の経験者。それを証明できるコンサートプログラムがあること。四曲に及ぶ課題曲、加えてオペラが五曲もある。

僕はさすがに呆然としてしまった。このうち、勉強してあつた曲は四、五曲しかない。これでは、一ヵ月後のコンクールに間に合うはずはない。もう少しやっておけば……という万人共通の論理が重くのしかかつてきた。

その時、ふと脳裏に、少年の頃の激しい情熱に燃えていた自分がよみがえつた。誰にも何も教えられず、無からあれだけの曲を作れた自分ではなかつたか。一ヵ月しかないのではない。一ヵ月もあるのだ。そう自分にいきかせ、すべての雑用を断り、寝る時間も惜しむような、机にしがみついた生活が始まつた。しばらくしてコンクー

ル委員会から届いた、“受け入れた”
という報は、さらに、自分の努力に拍
車をかけた。

一カ月は矢のように

コンクールに向けてのレッスンは始
まった。師、山田一雄先生の豊かで大
きな音楽と、厳しい中で胸がときめく
ような素晴らしいレッスンに週に二度
も接することができ、また、芥川也寸
志先生の作曲家としての立場の構成感
のレッスン。そして必死に机にしがみ
ついたかきがあつて、課題曲のほとん
どを一カ月の間に消化できるまにな
つた。しかし、一度もオーケストラで
振っていないという不安がつきまとつ
ていた。

オペラや現代曲等は、ピアノの山崎
百合子さんや、二期会や藤原歌劇団の
ピアノニストの久保見子さん、バリトン
の原田茂生氏にご協力いただいて、何
とか、かっこうがついてきてはいたけ
れど、交響曲は、ともかくオーケスト

ラに音を出してもらわないと、どうし
ようもない。

指揮者とは、一人で空間に向かつて
振っているだけでは、本当に何もでき
ない悲しい仕事であるし、ピアノに向
かつて振る時とオーケストラに向かっ
て振る時では、体に全く違う動きが要
求される。

僕は当時、何度かお付き合ひのあつ
た、アマチュアとして最高クラスの新
交響楽団やOB交響楽団に、課題曲の
一部を演奏して欲しいと頼み込んだ。
両オーケストラともども快く承知し
てくれ、初見大会と称して貴重な時間
を割いてくれた。一回通すだけである
し、皆、始めて見る曲がほとんどだつ
たらしく、思いどおりにはいかなかつ
たけれど、長年の経験による慣性の法
則というか、一度オーケストラと合わ
せてみて、あるいは通っただけで、体
は自然に曲に即応できるようになるの
だから、不思議なものである。このと
きの収穫と自身は大きく、両オーケス

トラに感謝の言葉もない。

そして神津善行氏の優しさも、また
僕を感激させた。氏は、ある演奏会の
一部を変更して、課題曲の一つ『セヴ
イリアの理髪師序曲』を振る機会を下
さつたのである。

僕には予感じみたものがあつて、第
一次ではこの曲を引き当てるような気
がしてならなかったもので、師に懇願し
ていたのだった。この曲の冒頭には二
つの解釈があつて、そのどちらを取る
かによって、曲全体の性格が大きく変
わってしまう。したがって、かなり周
到な用意が必要であつた。

神津氏のこのコンサートは“あらゆる
ジャンルの音楽の楽しみ”がテーマ
だったので、クラリネットの鈴木章治
氏、ドラムのジミー竹内氏、バイオリ
ンの玉木宏樹氏等が同室している。僕
はチャンスとばかり、そのスタンプレ
ーヤー達に楽譜を渡し、この入り方は
どの棒が一番わかりやすいかをたずね
た。

神津氏も熾烈な意見を下さる。楽屋で、人が見たらチンドン屋まがいの組み合わせの“ああでもない、こうでもない”の珍妙なやりとりが延々と続けられた。

矢のように時は過ぎた。何度かくじけそうになりながら、多くの人々の愛のお陰でここまで来れたという感じであった。

第一次審査

歓声とため息

いよいよ、四日間にわたる審査の幕が上がった。予選には違いないけれども、むしろこの予選こそ、最大の難関であることはもちろんであった。出番は三日目と発表されていた。

三日目の出場は、僕にとっては、大変幸運だった。硬さも完全に取れ、自分本来の動きができそうな気がしていた。

三日目。僕の出番である。まず一次審査のために用意された、十曲ほどある課題曲が箱の中に入っていて、それ

を取り出す。宝くじを引くような気分である。この中から引き当てた二曲を二十分の持ち時間で、指揮するのである。僕はセヴィリアと未完成交響曲が来ることを祈った。

一枚目 『ベートヴェン交響曲第一番、第二楽章』。早くも嫌な気分になる。難曲中の難曲であり、まとめるのが非常に難しい。もうあとはセヴィリアに期待するしかない。

二枚目 『セヴィリアの理髪師序曲』。見た瞬間。来た”と思った。体の中に気迫が満ちてくる。指揮台へ歩む間、オーケストラから期待と好奇に満ちた拍手がおこる。コンサートマスター、そして反対側のピオラのトップ奏者と握手するうち、完全に落ち着き気持ちにゆとりを持っている自分がいた。

主催者からは引いた順で、ベートーヴェンから始めてほしいとの要望があったけれど、僕は強引にセヴィリアからスタートした。とにかく、セヴィリアでオーケストラの音の感覚を知り、

それからベートーヴェンに挑むつもりでいた。

セヴィリアの冒頭は、今までの出場者に、僕のタイプで振った者はいなかった。ので、手短かに、こう演奏してほしい、こうではなくてと歌いながら、簡単にドイツ語で説明してスタートした。

棒を振り上げた瞬間、あの楽屋のチンドン屋まがいの情景が浮かんだ。それが体全体を弛緩させる役をしてくれた。とたんに素晴らしい音がはね返って来た。ぞくぞくとするよううれしさが背すじを走る。

今までの出場者は時間制限二十分ということなので、かなり止めての練習だったけれど、僕はその逆を行こうとして僕らの主義はそれなのだが、演奏を中断させずに、歌って！” “もっとレガートに” もっと弱く！”等の短い言葉の指示のみを与えた。今までのいやになる程止められていたオーケストラは、序の部分の中間部あたりからぐんぐん乗ってくるのがわかった。そ

してフィナーレまで、一気に激しい興奮でなだれ込むことに成功した。

曲が終わるやオーケストラは足をならし、弓で譜面をたたいて僕を譜面してくれた。こうなればもうしめたものである。波に乗るといふのは恐ろしい。このたった十分の間、まるで自分が別人になってしまうのだから。ベートーヴェンもその余勢を駆って、あの難曲が、まるで得意中の得意であったかのような演奏をすることに成功したのである。

振り終えて帰る僕の背に、オーケストラの人たちの温かいブラボーの音が飛んで来た。「一次は通過できた」という感情が、唐突に襲って来た。全員が終わったわけでもなく、もちろん結果すらも発表されていないのに。しかし、それは今までオーケストラが、他の出場者にこれほど多くの拍手をしたことがなかったという事実が原因で生まれた感情であった。

第二次審査

地獄から天国へ

二次審査から、コンクールの会場はリスト音楽院ホールからTVスタジオに移る。一次はMAVシンフォニーオーケストラが演奏したが、二次は、国立放送交響楽団である。この二次審査より、音楽コンクールでは世界最初のTV生中継となる。それは、ゴールデンアワーの七時三十分に行われ、初日六人、以下五人、五人の出場で、僕の出番は二日目の四番目となっていた。

採点方法は、各審査員が最高二十点を限度とした点数を出す。ただ極端に片寄った点を避ける為、最高と最低点の二人を除いた総合点が出される。オリンピックの体操競技と同じである。十四人の審査員からそれぞれ二十点をマークできれば二四〇点が取れる訳である。

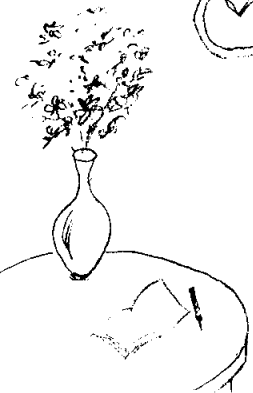
TVの視聴者にとって、これほど面白いコンクールはないだろう。一人ひとり振る曲が違おうにもサービスさ

れている。演奏時間の二十分間なら、どう演奏しようと、どう止めようと自由である。譜面台の前にランプが置いてあって、時間になると赤く点灯し、出場者がスタジオの外に出るころにはその人のトータルがTVの画面に出ているという仕組みである。

小林研一郎著

『指揮者のひとりごと』

騎虎書房より抜粋。小林氏の著書ご希望の方は、編集部までご連絡下さい。



掲示 掲示板

★役所の雑務代行

滞在ビザの更新、免許の更新、車の登録更新、税関からの荷物の引き取りなど、役所にかかわる雑務を引き受ける人がいます。このような煩わしい仕事の代行をお望みの方は、編集部までお知らせください。

★マッサージ

失業中のスポーツマッサージ師がいます。車で出張します。連絡は佐藤まで。

(☎149-1219)



★鍼灸師

日本で学んだ鍼灸師がいます。1回の治療は30分で、700フォリンです。

連絡は、編集部へ。

★日本人会事務局よりお願い

1994年1月、日本人会銀行口座に年会費をお払いくださった方、左記までご連絡頂けましたら幸いです。

古屋日本人会会長

TEL..153-3631 (兼松)

酒井由美子

TEL..201-0825

編集室

先般、掲示板でご案内した求職者が当地の日系企業に採用されることになりました。何が縁で結ばれるのか、神のみぞ知るですが、いろいろな生活情報を編集室にお寄せください。

TEL/FAX..266-4967